

# 令和3年度けやき幼稚園学校評価 (R3年度末作成) 公表シート ～本園の教育の理解のために～

## I 教育目標と教育方針

目標 : 武蔵野の土と緑のなかにあつて、自然に親しみ、明るく健康で質実な精神を養う
方針 : ・少人数による家庭的な手作りの保育を行なう ・のびのびと遊ぶこと、規律を守ることの両立による集団生活を営む ・早期の知育に偏らず、人間関係の基礎を学ぶ場として多様な経験を得させる ・保護者との良好な信頼関係を築き、家庭と手を携えて園児の生活と安全を守る

### 解説:

本園はちいさな幼稚園である。小さいからこそできる、一人一人を見つめる家庭的な手作りの保育を行なうことを全教職員の共通理解の根底に置く。大きなけやきの木の下で、のびのびと、かつ規律を守って過ごす毎日が、子どもの心と体の両面に確かな力をはぐくむことを信じ、子ども自らの育つ力を引き出すこと、仲間同士育ち合っていく姿を援助することを旨として、教育内容を検討し、日々実践していく。

上記の目標は、創立時の建学の精神を掲げたものである。子どもの育ちには自然が欠かせない、教育は田園の中で寺子屋のように行ないたいと、この武蔵野の地に武蔵野学園を設立した創立者の理想を汲んでいる。時代は流れ、今では田園ではなく住宅街の一角になったが、できるだけ、戸外で遊ばせ、緑と土に親しませたいと考える。そして、少人数で仲間とも先生たちとも家族的に触れ合い、一人一人がその一員として大切にされながら、他の子や園のためにも役立っているという自覚が持てるようにしていきたい。そのためには、昔の原っぱでのわんぱく集団のような異年齢での交流も有益と考える。

質実な精神とは、与えられるばかりでなく、与えることの豊かさを知ることでもある。お話や絵本で豊かな心を育て、体育や美術や音楽で心を解き放ち、様々な自己表現の機会を得させる。早期の知育に偏ることなく、基本的な生活習慣と、規律ある生活を尊び、自分のことは自分でする意欲を引き出す。愛情と安心の感じられる環境の中で、人との関わりを濃密にし、きちんと自己主張していくことで、同時に思いやりの心も育つ。

こうした教育を実りあるものにするためには、園とご家庭が信頼関係で結ばれ、お互いに感謝の心を持ち合うことが必要である。そして、園が家庭的であるためには、その一員として保護者同士も「おたがいさま、ありがとう」の心で、子どもたちが育ち合う姿を見守る態度がなくてはならない。送迎時や、土曜行事日など、保護者と担任や他の教職員とがコミュニケーションをとる機会を多く設け、有意義に活用していきたい。また親同士が知り合い、こどもの育成に力を合わせることで、温かい雰囲気の中での家庭的な保育の実現につながると考える。

## II 本年度、重点的に取り組む目標・計画

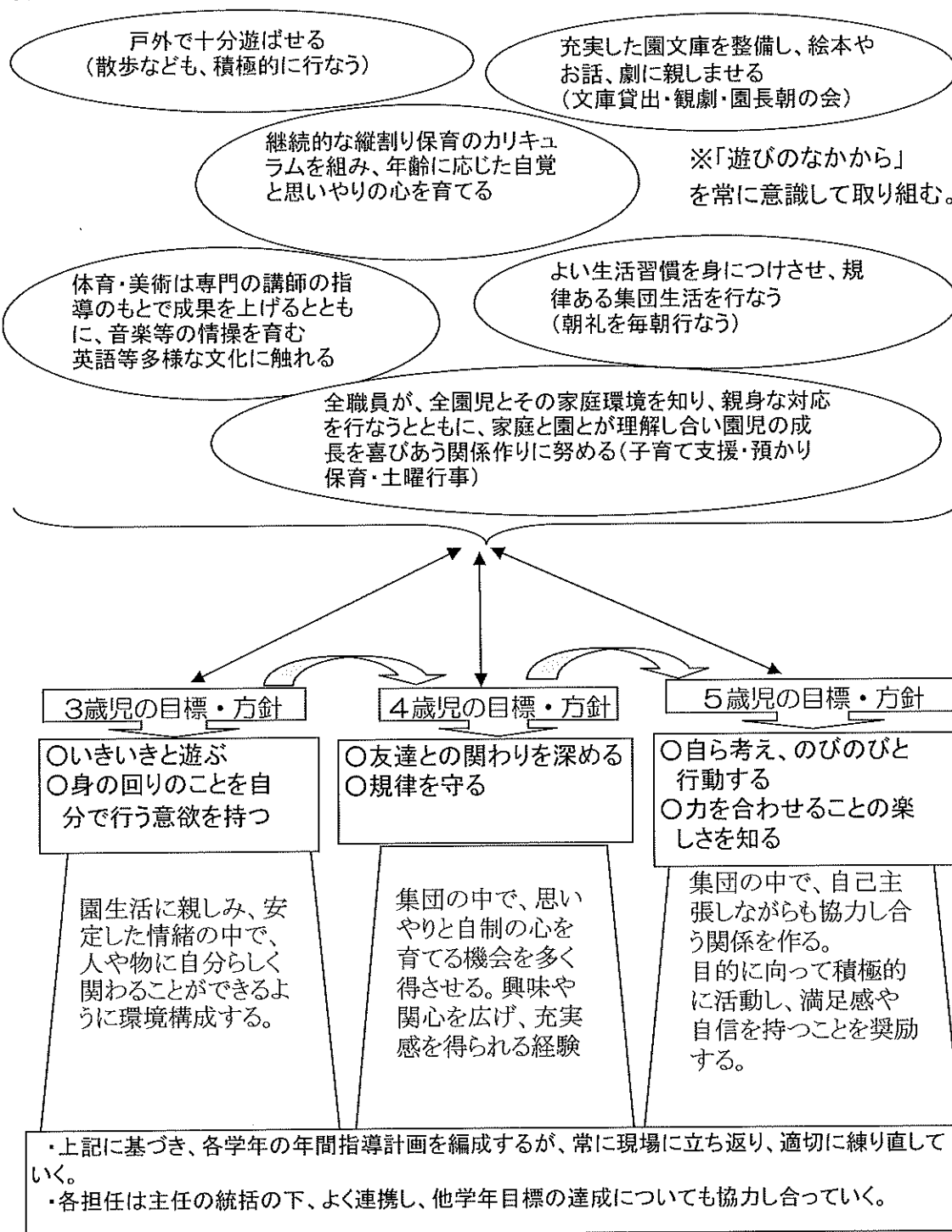
園児数減少を前向きにとらえ、密にならずに、かつ丁寧な保育を行う。

成長の糧となる行事、伝統行事もできるだけ引き継いで幼稚園ならではの経験を得させる。

コロナ禍で不足しがちな運動や大きな声を出す体験、観劇や音楽鑑賞など生の体験を重視する。

引き続き安全かつ子どもにとっての最善の利益となる教育の質の向上を図る。

## 特色(重点事項～教育目標・方針の実現・実践のために)・学年別目標と方針



### Ⅲ 評価項目の達成および取り組み状況

評価項目※	取組状況
安全管理と保育の質の維持・ 生きる力を育むための教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理は前年度から引き継いで評価項目としたが、予想外に長引くコロナ感染の恐れに、気を引き締めて、園児の新しい生活様式の順守を家庭も含めて啓蒙し、迅速な対応でクラスターの発生を阻止できた。全教職員も自主的に予防に努め、感染対策だけでなく、交通安全集会やAED講習、不審者対応訓練、種々の避難訓練など安全対策全般に理解と対応能力を高めた。</li> <li>・いつ休園を余儀なくされるかわからない状況の中で、登園日にはできるだけストレスをためない、ストレスを発散できる場を園児に提供することを心がける。保護者にはマスク着用の協力を求めるかわり、多くの行事で、従来に近いやり方を模索し、伝統を途切らさない工夫を行った。</li> <li>・生きる力を育むためには周囲との信頼関係が必要。家庭との連携、「育児が楽しい」と思える環境づくりのために、園児の成長ぶりを保護者と園・保護者同士が共有できる場を多く設定した。例として、宿泊保育を中止した代わりにナイト保育や樂焼体験遠足、ミニバスケット試合等々。</li> </ul>

### Ⅳ 総合的な評価の結果

令和3年度もコロナ対応に明け暮れた感は否めなかったが、前年度の経験を活かし、一日の流れや保育室の使い方などについては、職員間にも共通理解が生まれ、スムーズに行えた。ただ、黙食の励行のため、食育や語らいの楽しさの面では十分な経験を得させられなかった。音楽領域には制限もあったが、体育や美術、英語、絵本を通じての情操教育等の質の高さは維持できた。前年度課題としながら半ばだった教職員が扱うパソコンの導入で書類作成の負担を軽減し、研修を受け易くする等で、日々の保育に集中する環境を整えた。何より安全管理の面で無事に過ごせたことは評価できる。多くの保護者の支持と協力が得られたことのおかげである。

### Ⅴ 今後取り組むべき課題

課題	取り組み方法
建学の精神の保持 安全管理と保育の質の維持 コロナ禍の影響からの脱却	進む少子化と無償化による保護者意識の変化により、幼稚園教育への理解が薄れている。本園は預かってほしいという保護者ニーズに応えることが一義的な目標ではないため、保育の質を重視し、伝統的な行事や、集団での生の触れ合いを重視し、子育て支援の段階から保護者に子育ての楽しさを伝える取り組みをする。保護者との信頼関係を築き、連携を図る。教職員の共通理解と研修により熱中症、誤飲その他種々の危険を回避し、対応に備える。生の音楽や舞台などに触れ合う機会、いろいろな人との関わりを増やし、行事なども積極的に行う工夫をする。

### Ⅳ 学校関係者の評価

長引くコロナ禍の影響の中で、日常の保育や行事のねらいを吟味し、長期の休園に至ることなく、教育週数を確保して園の教育目標を達成した。保護者アンケート(別紙参照)の結果でも、園児の成長と学年目標の達成度には合格点がいただけた。教職員の年度末の自己評価チェックにおいても各々が自身の改善点を見出し、新年度への意欲を高めている。園児数減少傾向の中で、保護者サービス優先でなく、ぶれずに建学の精神を貫いてほしい。